

## 「フィリピン研修参加報告書」

京都大学文学研究科 修士課程2年 張 瑜淳

### ①学習成果

建築業界や家事労働者の送り出し機関、ホームレスの収容所、女性と子どもを支援するNPO 組織を訪問し、元タレントや偽装結婚で来日した女性たち、JFC の方々、現場の担当者への聞き取りなど、さまざまな情報が詰まった1週間でした。安里先生をはじめとするフィリピン研究者にとっては基礎的な知識かもしれませんが、私にとってはこれまで触れたことのない新鮮で斬新な内容であり、そこに存在するリアリティとその背後にある社会構造について多くの学びを得ました。

例えば、なぜ多くのフィリピン人が日本に出稼ぎに行くのか、その背景にはフィリピンの長い植民地支配の歴史があります。16世紀からスペイン、アメリカ、日本による占領が続き、1946年に独立を果たしたものの、フィリピンは資本の蓄積が進まないまま、アジア大陸から遠く離れた島国として産業基盤が整っていない状態です。多くの中国の工場が近隣のベトナムなどに移転する中、フィリピンでは重工業が乏しく、雇用機会も限られています。そのため、大学を卒業しても十分な収入が得られる職が見つげにくく、ましてや高卒の場合はさらに厳しい状況です。また、福祉制度も十分ではなく、大病を患うと高額な医療費が必要になり、幼稚園も多くが私立で費用が高額です。さらに、多くのフィリピン家庭は大家族で子どもも多く、多くのフィリピン人が家族の生活を支えるために海外で働き、仕送りを行うことを選んでいきます。政府もまた、国民が積極的に出稼ぎに行けるよう政策を整えており、労働者の海外派遣を支援しています。このようにして成り立っているフィリピンの構造は、まさに安里先生がおっしゃったように「超残余的な福祉国家」と呼べるでしょう。

しかし、フィリピン人にとって夢のような存在である日本は、彼／彼女らを日本国民と同等に扱っているとは言い難いのが現実です。雇用契約の裏契約や人権侵害の問題など、さまざまな課題が未だに残されています。送り出し機関の日本人担当者が述べたように、「日本人の代わりではなく、新しい仲間として受け入れてほしい」という願いが切実に感じられます。

### ②海外での経験

今回、初めて東南アジアを訪れる機会に恵まれ、日本に滞在する出稼ぎ労働者やプロモーター、フィリピンの送り出し機関で働く日本人担当者、シングルマザーやJFCなど、さまざまな立場の方と出会うことができ、普段の旅行では得られない貴重な学びを経験しました。マニラの最も古い城郭都市であるイントラムロス (Intramuros) を馬車に乗って観光できたことも、とても興味深かったです。毎日安里先生、本間さん、野下さんと一緒に食事をしながら、フィールドの話だけでなくさまざまな話題で交流を深めることができ、本当に楽しく、一生忘れない貴重な経験となりました。

### ③プログラム内容

1日目：夕方、マニラ空港に到着後、ホテルへ移動。シングルマザーの方2人がホテルまでお越し下さり、一緒に夕食を楽しみました。

2 日目：午前中、女性と子どもを支援する NGO 組織「Development Action for Women Network (DAWN)」を訪問し、担当者の方に聞き取り調査を実施。その後、午後にはイントラムロスの見学を行いました。

3 日目：午前中に建築業界の送り出し機関を訪問し、社長に約 3 時間の聞き取り調査を行いました。その後、建築現場での実習施設を見学しました。午後には別の場所にある家事労働者の送り出し機関を訪問し、家事労働者が選考を受けるための面接リハーサルを拝見し、日本人担当者にも聞き取りを行いました。

4 日目：本来であれば、フィリピン政府の在外フィリピン人委員会 (CFO) を訪問する予定でしたが、洪水の影響でキャンセルとなり、その代わりにプロモーターの方に聞き取り調査を実施しました。

5 日目：朝、帰国しました。

#### ④進路への影響について

私は博士後期課程への進学を志望しているため、今回のフィリピン研修では、フィリピンに対する理解を深めるだけでなく、フィールド調査における対象者との関わり方について学ぶことができ、大変有意義な経験となりました。なによりも、安里先生や本間さんのような卓越した研究者の姿勢に触れる機会をいただき、非常に勉強になりました。世の中には依然として理不尽な現実や憤りを感じる事柄が多く存在しますが、それらに真摯に向き合い、闘い続ける安里先生や本間さんのような方々がいることが、非常に心強く感じられました。